

# 平成22年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 2 - 9
事務事業名	都市計画マスタープラン策定事業			担当課係	都市整備課
総合計画上の位置付け	大項目	6. 「街が輝く」		記入担当者	
	中項目	魅力ある都市基盤の整備		内線等	
	小項目	1. 中心市街地・周辺市街地の計画的な整備		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	8	土木費	項	7
	目	1	都市計画総務費	事業	6
開 始 年 度	平成	22	年度	根拠法令・要綱等	都市計画法

## 事務事業の概要（実施内容）

<b>事業の対象</b>	（誰の、何のために事業を実施するのか） 小松島市のまちづくりの基本方針となる都市計画マスタープランの策定
<b>事業の目的</b> （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 広域的なまちづくりの方針である徳島東部都市計画区域マスタープランに即しながら、よりきめ細かなまちづくりの基本方針として、小松島市都市計画マスタープランを策定する。
<b>事業の内容</b> （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 小松島市都市計画マスタープランは、上位計画である徳島東部都市計画区域マスタープランや小松島市第5次総合計画に即しながら、市民の意見を反映したまちづくりの基本方針を定めるものである。平成22年度は小松島市の現況を把握するための基礎調査を実施し、今後、市民アンケートの実施や、市民や各種団体の代表者、学識経験者からなる策定市民会議、地区別ワークショップ等の開催により意見を集約し、平成24年度末の策定を目標とする。
<b>事業の背景</b> （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 広域的な都市計画の方針である徳島東部都市計画区域マスタープランだけでは、きめ細かなまちづくりが難しいため、住民に最も近い立場にある市町村が、具体性のある将来ビジョンを持ち、地域別のまちづくりの方針を定める必要が生じた。

## 事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果
	単位		H21	H22	H23	H24	将来目標 (年度：平成)	
	目標							
実績								
達成度								

小松島市のまちづくりの基本方針を定めることにより、効率的・計画的な都市施設・インフラ整備の実現や、用途地域の見直しなど開発の誘導を行うことが可能となる。

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H21	H22	H23	H24	指標の説明
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					

## 事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		21年度決算	22年度決算	23年度決算	22年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費		1,404,270	0	4,682,000	
	財源内訳	国県支出金		0		
		地方債		0		
		利用者負担		0		
		一般財源		1,404,270		
	B 人件費 ×		2,062,858	0		
	職員平均人件費		6,876,194			
従事した割合 人		0.3				
A + B			3,467,128	0		
単位コスト	活動指標の説明				備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト				平成21年4月1日現在 人口41,778人	
	市民一人あたりのコスト		84		平成22年4月1日現在 人口41,507人	

事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) これまでは都道府県が定める広域的な都市計画区域マスタープランや市街化区域・市街化調整区域の区域区分(線引き)をもとに都市計画がすすめられてきたが、近年、市町村が独自に創意工夫のうえ、市民の意見を反映したまちづくりを行う
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 市民アンケートや策定市民会議、地区別ワークショップなどにより、市民の意向を反映する。

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	必要性が高い	住みよいまちづくりを実現するためには、中長期的な基本方針を定めなければならない。
	どちらかといえば必要性がある	
	必要性が低い	
	必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	市が行わないといけない	都市計画は市民生活に開発や土地利用など、さまざまな影響を与えるものである為、最も住民に近い行政である市が行うべきである。
	どちらかといえば市で実施	
	必然性が低い	
	必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	効率的である	今後、住民の意見を反映するため、市民アンケートや地区別ワークショップ等を行っていくが、意見把握の方法や範囲について、より効率的となるよう検討をしていかなければならない。
	どちらかといえば効率的	
	どちらかといえば非効率的	
	非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	緊急性が高い	現在の都市計画決定事項について見直す場合にも、小松島市マスタープランでの位置づけ等が根拠となることから、早急に策定する必要がある。
	比較的緊急性がある	
	緊急性が低い	
	緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	成果が上がっている	平成22年度は基礎調査を実施し、小松島市の現況について情報を集めることができた。
	どちらかといえば上がっている	
	どちらかといえば上がっていない	
	成果は上がっていない	
今後の課題	平成23年度より、住民の意見を反映し、全体構想・地区別構想をまとめていくことになるが、策定市民会議で議論する内容や地区別ワークショップの開催方法などを模索していかなければならない。	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	1	事務事業の方向性		80点以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2	3			
1	1	1	2	86	1	小松島市の魅力あるまちづくりを実施していくためには必要不可欠である。

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	1	事務事業の方向性		判定説明
		1	2	
1	1	1	2	都市計画で決定された内容は、産業建設部門のみならず広く市民生活全体に影響を及ぼすものであることから、その基本方針となる小松島市都市計画マスタープランの策定にはより多くの意見を取り入れ、十分に検討し、実現可能な計画となるよう、策定する必要がある。